

国立科学博物館 日本館 (旧東京科学博物館 本館)



日 本で最も歴史ある博物館の1つである国立科学博物館日本館。この建物は、旧東京科学博物館本館として関東大震災復興の折に建設され、昭和6年(1931年)9月に完成した。

設計は文部省大臣官房建築課の文部技師糟谷謙三^{かすやけんぞう}が担当。躯体は鉄筋コンクリート造で、地上3階(1部4階)地下1階建、中央に車寄せが配置されている。

装飾が少なく、重厚・堅固そのものの「ネオ・ルネサンス様式」の威風堂々とした建築である。

外装は御影石と茶色いスクラッチタイル(表面に引っかき傷を付けたタイル)で仕上げられている。上空から見ると、当時の科学技術の象徴であった、両翼のある飛行機の形になっていることも特徴だ。

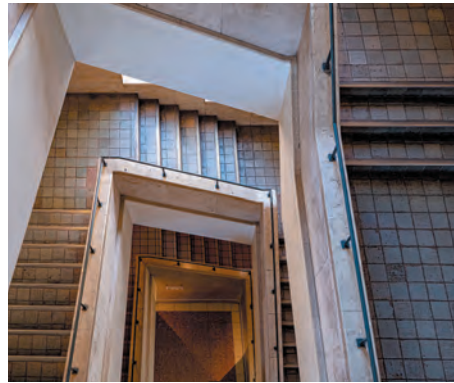
建物の中心には4階建ての吹き抜けホール。天井にはドームが設けられ、半球の内部には立体的な升目^{きりめ}が並ぶ。

ホールの壁面には漆喰で華やかなレリーフ装飾が施され、床には幾何学模様のモザイクタイルが敷かれている。

四方のアーチ部分には神社の燈明にも似た、どこか日本的なデザインの照明が吊るされ、その後ろには美



中央ホール床のモザイクタイル



大理石やタイル、鋳物などが用いられた階段部分



館内各所を彩るステンドグラス



中央ホール吹き抜け天井のドームと
アーチの組み合わせが美しい

DATA

名 称 国立科学博物館 日本館
(旧東京科学博物館 本館)
所在地 東京都台東区上野公園 7-20
完 成 昭和 6 年
設計者 文部省大臣官房建築課
(糟谷 謙三)

しいステンドグラスが嵌め込まれている。
ドームを飾るステンドグラスをはじめ、館内各所に配されたステンドグラスは、日本のステンドグラスのパイオニアである小川三知スタジオの手によるものである。
図案は、築地本願寺を設計した建築家の伊東忠太。向かい合う鳳凰や曲線の植物が、色鮮やかに描き出されている。
ホールの奥にある中央階段にも、大理石や鋳物を用いられ、さまざまな意匠で凝った装飾が施されている。階段の床面部分には、表面に布目状の凹凸を施した布目タイルが貼られている。
平成 20 年（2008 年）に国の重要文化財に指定された。